

# EU Indicators

## 欧州経済指標コメント：ユーロ圏の銀行貸出調査

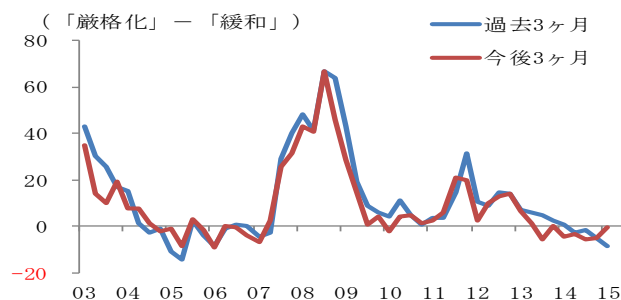
発表日：2015年4月15日(水)

～量的緩和の効き目はありますか？～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 首席エコノミスト 田中 理  
 03-5221-4527

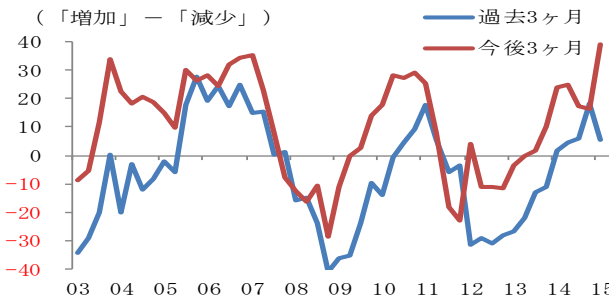
- 第1四半期のユーロ圏の銀行貸出調査（調査時期は3月6日～23日）では、過去3ヶ月の企業向け融資基準判断（「厳格化」と「緩和」の回答の差、マイナスが緩和超）が前回：▲5→今回：▲9と、緩和超の度合いが増した。内訳は大企業向けが▲5→▲5と前回並みにとどまったのに対し、中小企業向けが▲7→▲9と改善を主導した。融資基準判断に影響した要因を尋ねた設問では、「他行との競争激化」と回答した割合の増加が前回調査対比で基準を緩和した主因となっている。今後3ヶ月の融資基準は▲5→▲1と緩和超度合いが縮小するものの、一段の基準緩和が見込まれている。
- 過去3ヶ月の企業の資金需要判断（「増加」と「減少」の回答の差、プラスが増加超）は5調査連続で増加超を記録したものの、増加超幅は+18→+6に縮小した。今後3ヶ月の資金需要判断は+17→+39と大幅な改善が見込まれており、先行きの資金需要の回復期待が一段と強まっている。
- 不定期の調査項目の中では、ECBによる拡大資産買入れプログラムにより、利益マージンの圧迫を通じて収益性が悪化するとの回答がある一方で、資金調達環境の改善や流動性ポジションの改善などを好感する意見が多い。資産買入れを通じて供給された流動性が非金融企業向け融資拡大に寄与するかについては、過去6ヶ月の実績で回答者の28%が、今後6ヶ月の見通しでは回答者の35%が「寄与する」と回答。資産買入れが国債などに拡大されることが決定されたのは1月中旬、実際に買入れが開始されたのが3月第2週。今回の調査では買入れ決定後から買入れ開始直後の結果を反映しており、ECBによる資産買入れが融資拡大に一定の効果を発揮する可能性が示唆される。

■ユーロ圏：銀行の融資基準



出所：欧州中央銀行

■ユーロ圏：企業の資金需要



出所：欧州中央銀行

■ユーロ圏の銀行貸出調査

			2012		2013				2014				2015	
			3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	
融資基準	企業全体	過去3ヶ月	15	14	7	6	5	2	1	-3	-2	-5	-9	
		今後3ヶ月	13	14	7	1	-6	0	-5	-3	-6	-5	-1	
	中小企業	過去3ヶ月	11	13	7	6	3	-3	0	-5	0	-7	-9	
		大企業	過去3ヶ月	17	15	4	3	5	2	-3	-4	-4	-5	-5
住宅ローン	過去3ヶ月	13	18	14	7	1	-0	-5	-4	-2	-4	2		
	企業全体	過去3ヶ月	-31	-28	-27	-22	-13	-11	2	4	6	18	6	
		今後3ヶ月	-11	-12	-4	-0	2	10	24	25	17	17	39	

注：融資基準は「厳格化」－「緩和」と回答した割合の差。資金需要は「増加」－「減少」の差。

出所：欧州中央銀行

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。